

平成 24 年度

病害虫発生予報第 2 号

平成 24 年 5 月 24 日

三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/boiyosyo/>

目 次

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠	7
4. 予察項目の見方	12
5. 今月のトピックス(水稲のスクミリンゴガイによる被害について)13	
6. 気象のデータ	14
7. おしらせ	16

1. 向こう 1 か月の予報と対策

1) 作物

イネでは、葉いもちの発生時期は平年並、発生量はやや多と予想されます。気象台発表の長期予報やいもち病発生予測支援システム（ブラスタム）を参考に、発生状況に注意してください。イネミズゾウムシの発生時期はやや遅、発生量はやや少と予想されます。イネクロカメムシの発生量はやや少と予想されます。

2) 果樹

カンキツでは、かいよう病（中晩柑）、ミカンハダニの発生量はやや多と予想されます。かいよう病（中晩柑）では、幼果への感染防止のため予防散布を実施してください。ミカンハダニが多発している圃場では、ていねいに薬剤散布してください。そうか病、黒点病、かいよう病（温州みかん）、の発生量は平年並と予想されます。チャノキイロアザミウマの発生量はやや少と予想されます。

ナシでは、黒星病、ハダニ類の発生量は平年並と予想されます。

ブドウでは、べと病の発生量は平年並と予想されます。

果樹共通では、果樹カメムシ類の発生量はやや多と予想されます。ナシ、カキ等圃場への飛来に注意し、確認したら防除を実施してください。

3) 茶

チャでは、炭疽病、もち病、カンザワハダニの発生量は平年並、チャノホソガ、チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマの発生量はやや少と予想されます。

4) 野菜

イチゴでは、炭疽病の発生量はやや多と予想されます。今後は発生しやすい時期のため、薬剤による予防防除を徹底してください。うどんこ病はやや少と予想されます。

ネギでは、ネギコガの発生量は平年並と予想されます。

野菜共通では、コナガの発生量はやや少と予想されます。

2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						5月	6月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
イネ	葉いもち	平年並	やや多	小	普通	置苗で発生 ↓		本田で発生 ↓		<ol style="list-style-type: none"> 1) 補植用置き苗はいもち病の発生源となるので、速やかに除去し、枯死させてください。 2) 本田粒剤による予防は初発前に行ってください。 3) いもち病発生予測支援システム（ブラスタム）において、感染好適条件の現れた7～10日後に初発が予測されます。 4) ブラスタムの最新情報は病害虫防除所ホームページで随時更新しています。
	イネクロカメムシ	—	やや少	小	低		成虫誘殺数 ↓		被害量 ↓	<ol style="list-style-type: none"> 1) 常発地で薬剤散布する場合は、越冬成虫の発生量がピークとなる6月下旬に実施してください。
	イネミズゾウムシ	やや遅	やや少	小	低		成虫誘殺数 ↓			<ol style="list-style-type: none"> 1) 株当たり 0.5 頭以上の成虫が発生していれば防除してください。
カンキツ	そうか病	—	平年並	小	普通	葉・枝 ↓		果実 ↓		<ol style="list-style-type: none"> 1) 梅雨明けまで、幼果に感染します。 2) 6月以降は新芽や幼果の病斑から二次感染するので、発生している園地では、予防散布が重要です。
	黒点病	—	平年並	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 生理落果盛期～後期に予防散布を実施してください。 2) 上記薬剤散布後、積算で 200mm 以上の降雨があったら、次の防除を実施してください。 3) 枯枝が伝染源です。梅雨時期の枯枝発生に注意し、樹冠内や圃場内の枯枝を除去して下さい。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項		
			平年比	平年比		程度	平年比	5月			6月	
								下旬	下旬		中旬	下旬
カンキツ	かいよう病	—	温州 平年並	温州 小	温州 普通		<ol style="list-style-type: none"> 旧葉で越冬病斑が見られる圃場では、新葉や幼果での発病を防ぐため、感染を助長する降雨等の気象条件に注意し、ボルドー剤による予防防除を実施してください。 越冬病斑が見られない圃場でも、本病に弱い品種（カラ、セミノールなど）では、幼果への感染防止対策として、予防散布を実施してください。 中晩柑類では、梅雨期頃から10月中下旬頃まで、果実への感染が起こります。 					
	ミカンハダニ	—	やや多	中	普通				<ol style="list-style-type: none"> 梅雨期は薬剤散布のタイミングが取りにくいので、マシン油乳剤等を有効に利用する散布を計画して下さい。 冬期防除が実施できなかった等により発生密度が高い圃場では、散布ムラのないように十分に薬剤散布して下さい。 同一系統薬剤使用は年1回としてください。 			
	チャノキイロアザミウマ	—	やや少	小	普通						<ol style="list-style-type: none"> 例年被害の多い圃場では、6月上旬～中旬に防除し、その後は30日間隔を目安に次回の防除を行ってください。 	
ナシ	黒星病	—	平年並	小	普通		<ol style="list-style-type: none"> 発病葉は発見次第取り除き、圃場外へ持ち出して処分してください。 薬剤散布にあたっては、同一作用性を示す薬剤の連用を避けてください。 					
	ハダニ類	—	平年並	小	普通				<ol style="list-style-type: none"> 防除の目安は成虫の1葉当たり寄生虫数が1頭以上の時です。 殺ダニ剤に対する抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の使用は年1回としてください。 			

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						5月	6月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
ブドウ	べと病	—	平年並	小	普通					1) 雨が続くと急激に発生が広がります。降雨が予想される時は、早めに予防散布を行ってください。 2) 葉裏をよく観察して、病斑を認めたら、直ちに防除を実施してください。 3) 被害葉、被害果穂は、発見次第取り除いて、圃場外に持ち出し処分してください。
						1) 圃場をよく観察して、初期の飛来を確認します。夜温が急に高くなると、活発に飛翔します。園地付近の街灯などでも飛来の兆候を観察してください。 2) ナシ、カキ等では飛来を確認したら防除を実施してください。				
チャ	炭疽病	—	平年並	中	普通					1) 降雨と適温（25℃前後）が揃うと柔らかい新芽に感染します。 2) 旧葉に病斑葉が多いところでは注意してください。 3) 開葉初期に防除しましょう。
	もち病	—	平年並	小	低					
	カンザワハダニ	—	平年並	中	普通					

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						5月	6月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
チャ	チャノホソガ	—	やや少	小	普通	成虫密度		1) 成虫の飛来状況と新芽への産卵状況に注意してください。成虫の飛来状況は病害虫防除所のホームページを参考にしてください。 2) 防除適期は孵化直後の潜葉期（絵描き状態）です。		
	チャノミドリヒメヨコバイ	—	やや少	小	普通	成虫密度		1) 成虫で越冬し、新芽の伸長とともに発生が増加します。 2) 新芽を加害し、先端から褐変して落葉することもあります。 3) 萌芽～開葉初期に防除しましょう。		
	チャノキイロアザミウマ	—	やや少	小	低	成虫密度		1) 成虫で越冬し、新芽の葉裏に産卵し加害します。 2) 新芽の伸長とともに発生が増加しますので、開葉初期に防除しましょう。		
イチゴ	うどんこ病	—	やや少	中	普通	親株		1) 今後1か月は感染しやすい時期です。圃場をよく観察し、早期発見に努めてください。 2) 発病葉を確認したら適宜取り除き、親株床から持ち出して適切に処分してください。 3) 育苗圃で発生が多いと本圃でも多発するため、親株の時期から薬剤防除を徹底し、健全苗を育成してください。 4) 葉裏から発生しやすいので、薬液が葉裏までかかるよう丁寧に散布をしてください。 5) 薬剤耐性菌を生ずる恐れがあるため、同一薬剤や同一系統薬剤の連用は避けてください。		

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						5月		6月		
						下旬	下旬	中旬	下旬	
イチゴ	炭疽病	—	やや多	中	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 高温・多湿条件で発生しやすいため、今後の梅雨・高温期にかけては注意が必要です。 2) 薬剤による予防防除を徹底してください。薬剤散布は株元まで十分かかるように行い、畝やベンチの両側からも散布してください。 3) 罹病株は感染源となります。見つけ次第速やかに除去し、圃場外に持ち出して処分してください。また、周辺株も感染の疑いがあるため、併せて処分してください。 4) 水滴の跳ね返りによって病原菌が広がります。灌水時は、跳ね返った水滴が茎葉に当たらないよう注意してください（やさしく手灌水、チューブ灌水）。
ネギ	ネギコガ	—	平年並	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 春から秋にかけて4~5回発生します。 2) 幼虫が葉の内部に潜り、表皮を残して食害します。そのため、潜入防止のための早期防除が重要です。
野菜共通	コナガ	—	やや少	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 近年、大きな被害は見られませんが、繁殖力が旺盛なアブラナ科野菜の重要害虫です。 2) 年間を通じて各発育態が見られ、発生密度は晩春に特に高くなります。発生密度の低いうちに防除を行ってください。 3) 中、老齢幼虫になるに従い、殺虫効果が低くなります。若齢幼虫のうちに防除してください。 4) 薬剤抵抗性の発達しやすい害虫であるため、同一薬剤や同一系統薬剤の連用は避けてください。

3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ	葉いもち	平年並	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報（5月18日発表）によると、期間の前半は平年に比べ晴れの日が多い予想。期間の後半は平年と同様に曇りや雨の日が多く、気温は低い予想（発生時期±、発生量+）</p> <p>2) 巡回調査圃場（昨年8月）では、穂いもちの発生圃場率 35.3%（平年 12.3%）と多、発病穂率 0.5%（平年 0.1%）と多（+）</p> <p>3) 巡回調査圃場（5月第2週）では、置き苗での発生率 0%（5年平均 0%）と平年並に少ない傾向（±）</p> <p>4) 一般圃場では、一部の地域で育苗期間中に苗いもちが発生（+）</p> <p>考察： 今後の気象要因から、予想発生時期は平年並、昨年の巡回調査結果および一般圃場の発生状況から、本田への感染源の持ち込みの可能性があると考えられ、予想発生量はやや多と考えます。</p>
	イネクロカメムシ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 予察灯（松阪市・昨年8月第2半旬～10月第6半旬）では、誘殺数は水田位置 22 頭（平年 65.2 頭）と少、畑位置 768 頭（平年 2648.9 頭）と少（-）</p> <p>2) 予察灯（松阪市・4月第1半旬～5月第4半旬）では、誘殺数は水田位置 0 頭（平年 0.2 頭）と平年並に少、畑位置 2 頭（平年 5.9 頭）とやや少（-）</p> <p>考察： 予察灯の状況から越冬成虫数は少ないと考えられるため、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	イネミズゾウムシ	やや遅	やや少	<p>要因</p> <p>1) 予察灯（松阪市・4月第1半旬～5月第4半旬）では、越冬成虫の最盛日は5月8日（平年5月5日）とやや遅（発生時期+）</p> <p>2) 予察灯（松阪市・4月第1半旬～5月第4半旬）では、誘殺数は 17 頭（平年 59.9 頭）と少（-）</p> <p>3) 巡回調査圃場（5月第2週）では、発生圃場率 55.0%（平年 71.2%）と少、被害株率 19.1%（平年 30.5%）と少、株当たり虫数 0.04 頭（平年 0.05 頭）と少（-）</p> <p>4) 一般圃場では、無～平年並（概して少）（-）</p> <p>考察： 予察灯の状況から、幼虫の予想発生時期はやや遅、予察灯、巡回調査圃場の状況を重視して予想発生量はやや少と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	そうか病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月18日発表)によると、気温は低くなく(+)、期間の前半は晴れの日が多い予想(-) (±)</p> <p>2) 県予察圃(5月中旬、無防除)では、新葉発病率82.5%(平年33.1%)と多(+)、発病果率0%(平年0.3%)と平年並(±) (+)</p> <p>3) 巡回調査圃場(5月第2週)では、旧葉発病度0.1(平年0.04)とやや多 (+)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察： 一般圃場の発生状況を重視して現状の発生量は平年並と思われ、大きな増加の要因はなく、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	黒点病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月18日発表)によると、期間の前半は晴れの日が多い予想 (-)</p> <p>2) 県予察圃(無防除圃)では、前年(10月下旬)の果実発病度は96.4(平年76.2)と多 (+)</p> <p>3) 感染源となる枯枝は平年並の状況 (±)</p> <p>考察： 平年と比べて大きな増減の要因はなく、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	かいよう病	-	温州 平年並 中晩柑 やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月18日発表)によると、期間の前半は晴れの日が多い予想 (-)</p> <p>2) 県予察圃における新葉での初発は、5月14日現在未確認(平年5月13日) (±)</p> <p>3) 県予察圃(5月中旬)では、新葉発病率0%(平年1.9%、ただし6か年は0%)と平年並 (±)</p> <p>4) 巡回調査圃場(5月第2週)では、旧葉発病率は温州みかんでは0%(平年0.3%)と平年並(±)、中晩柑では16.3%(平年7.3%)と多(+)</p> <p>5) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察： 温州みかんでは、現状の発生量は平年並と思われ、大きな増減の要因はなく、予想発生量は平年並と考えます。中晩柑類では、現状の発生量はやや多と思われ、予想発生量は引き続きやや多と考えます。</p>
	ミカンハダニ	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月18日発表)によると、気温は低くなく、期間の前半は晴れの日が多い予想 (+)</p> <p>2) 県予察圃(5月中旬)では、100葉当たり寄生虫数は、無防除区68.9頭(平年29.1頭)、慣行防除区4.4頭(平年0.3頭)といずれも多 (+)</p> <p>3) 巡回調査圃場(5月第2週)では、発生圃場率61.5%(平年40.0%)、旧葉寄生率24.2%(平年10.2%)、寄生頭数1.88頭/葉(平年0.99頭/葉)といずれも多 (+)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量はやや多 (+)</p> <p>考察： 現状の発生量はやや多と思われ、予想発生量は引き続きやや多と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	チャノキイロアザミウマ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月18日発表)によると、期間の前半は晴れの日が多い予想 (+)</p> <p>2) 県予察圃黄色粘着トラップ(5月上旬)では、誘殺数0頭/日(平年0.28頭/日)と少 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概してやや少) (-)</p> <p>考察: 現状の発生量はやや少と思われ、今後の増加を考慮しても、予想発生量はやや少と考えます。</p>
ナシ	黒星病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月18日発表)によると、気温は低くなく(+)、期間の前半は晴れの日が多い予想(-) (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(5月第2週)では、発病葉率0.2%(平年0.2%)と平年並 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察: 現状の発生量は平年並と思われ、大きな増加の要因はなく、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	ハダニ類	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月18日発表)によると、気温は低くなく、期間の前半は晴れの日が多い予想 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(5月第2週)では、寄生葉率0%(平年0.2%)、寄生頭数0頭/葉(平年0.004頭/葉)と平年並に少 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察: 現状の発生量は平年並に少なく、気象条件による増加を考慮しても、予想発生量は平年並と考えます。</p>
ブドウ	べと病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月18日発表)によると、期間の前半は晴れの日が多い予想 (-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(5月第2週)では、発病は未確認(平年発病葉率0%) (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察: 現状の発生量は平年並に少ないと思われ、大きな増加の要因はなく、予想発生量は平年並と考えます。</p>
果樹共通	カメムシ類	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(御浜町:5月1日~10日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ473頭(平年516頭)と平年並(±)、ツヤアオカメムシ2948頭(平年1194頭)と多(+) (+)</p> <p>2) 予察灯(畑・松阪市:5月1日~20日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ201頭(平年130頭)、ツヤアオカメムシ18頭(平年14頭)といずれもやや多 (+)</p> <p>3) フェロモントラップ(5月1日~5月16日)では、チャバネアオカメムシ誘殺数は、山地(津市白山町川口)で83頭(平年88頭)と平年並(±)、中間地(津市白山町二本木)で106頭(平年126頭)とやや少(-)、平坦地(松阪市嬉野川北町)で44頭(平年28頭)と多(+) (±)</p> <p>4) 巡回調査圃場(5月第2週、カンキツ圃場)では、叩き落とし虫数0.03頭(平年0.3頭)と平年並 (±)</p> <p>5) 一般圃場では、発生量はやや多 (+)</p> <p>考察: 現状の発生量はやや多と思われ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	炭疽病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月18日発表)によると、気温は低い予想 (+)</p> <p>2) 県予察圃(一番茶期)では、新葉の発病葉数0枚/m²(平年0枚/m²)と平年並に少 (±)</p> <p>3) 巡回調査圃場(4月第2週)では、旧葉の発病葉数3.3枚/m²(7年平均2.7枚/m²)とやや多の傾向で、5月第2週の調査では旧葉の発病葉数14.9枚/m²の状況 (+)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量はやや少 (-)</p> <p>考察: 一般圃場の状況を重視して現状の発生量はやや少と考えますが、今後の増加を考慮して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	もち病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月18日発表)によると、気温は低い予想 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(5月第2週)では、新葉の発病葉数0枚/m²(平年0.0枚/m²)と平年並に少 (±)</p> <p>2) 一般圃場では、発生量は少 (-)</p> <p>考察: 現状の発生量は平年並に少と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
	カンザワハダニ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月18日発表)によると、気温は低い予想 (+)</p> <p>2) 県予察圃(5月中旬)では、寄生葉率1.0%(平年5.3%)と少、寄生頭数0.01頭/枚(平年0.19頭/枚)と少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(5月第2週)では、新葉寄生率1.4%(平年5.9%)と少、寄生頭数0.02頭/枚(平年0.15頭/枚)と少だが、裾部の旧葉では多くの圃場で寄生を確認 ()</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察: 現状の発生量はやや少と考えられますが、今後の増加を考慮して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	チャノホソガ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃フェロモントラップ(4月第5半旬~5月第4半旬)では、誘殺数84頭(平年192頭)と少 (-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(5月第2週)では、巻葉数0.1枚/m²(前年0枚/m²)と平年並の傾向 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量はやや少 (-)</p> <p>考察: 現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>
	チャノミドリヒメヨコバイ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃吸引粘着トラップ(4月第5半旬~5月第4半旬)では、捕殺数0頭(平年5.9頭)と少 (-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(5月第2週)では、たたき落とし虫数0.6頭(平年1.6頭)とやや少 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察: 現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	チャノキイロアザミウマ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃吸引粘着トラップ(4月第5半旬~5月第4半旬)では、捕殺数611頭(平年1489頭)と少 (-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(5月第2週)では、たたき落とし虫数0.9頭(平年7.7頭)と少 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察: 現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>
イチゴ	うどんこ病	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月18日発表)によると、期間の後半は平年と同様に曇りや雨の日が多い予想 (±)</p> <p>2) 一般圃場では、本圃での発生量は少~並(概してやや少)で、親株床での発生も同様の傾向 (-)</p> <p>考察: 現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>
	炭疽病	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月18日発表)によると、気温は低くない予想 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(昨年11月第2週)では、発病株率1.8%(平年0.2%)と多 (+)</p> <p>3) 一般圃場では、親株床で特に目立った発生はなし (±)</p> <p>考察: 現状は平年並に特に目立った発生はありませんが、今後の増加を考慮して、予想発生量はやや多と考えます。</p>
ネギ	ネギコガ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月18日発表)によると、期間の後半は平年と同様に曇りや雨の日が多い予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ(4月第5半旬~5月第4半旬)では、誘殺数は341頭(平年134頭)と多 (+)</p> <p>3) 巡回調査圃場(5月第2週)では、被害葉率0%(平年0.1%)と平年並に少 (±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並に少 (±)</p> <p>考察: 現状の発生量は平年並に少と考えられ、今後大きな増加要因がないため、予想発生量は平年並と考えます。</p>
野菜共通	コナガ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月18日発表)によると、期間の後半は平年と同様に曇りや雨の日が多い予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ(4月第5半旬~5月第4半旬)では、誘殺数は25頭(平年221.2頭)と少 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少~やや少(概してやや少) (-)</p> <p>考察: 現状の発生量はやや少と考えられ、今後大きな増加要因がないため、予想発生量はやや少と考えます。</p>

4. 予察項目の見方

1) 「作物別の状況」の見方

発生時期（平年比）： 平年の発生月日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数		-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年 発生日	1	2	3	4	5	6	
評価		早	やや早		平年並				やや遅			遅			

発生量（平年比）： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感ずることがあります。

		平年値 ↓				
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並		やや多	多

発生量（程度）： 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少くなります。「発生量（平年比）」と比べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よ

りやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率（平年比）： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除をしていればよいと予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要な圃場の割合が相当増加すると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか防除しなくても済むような圃場の割合が相当増加すると予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発生消長の一例： 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

2) 「発生時期・発生量（平年日）の予察根拠」の見方

（±）：平年並の要因

（+）：発生量増加または発生時期遅延の要因

（-）：発生量減少または発生時期早期化の要因

5. 今月のトピックス 「水稲のスクミリングガイによる被害について」

本種は俗称ジャンボタニシとも呼ばれる淡水巻貝で、30年程前に外国から養殖目的で導入され野生化したものと言われています。日本在来のタニシに比べて殻口部が広く、殻頂部がすくんだ形をしています(図1a)。

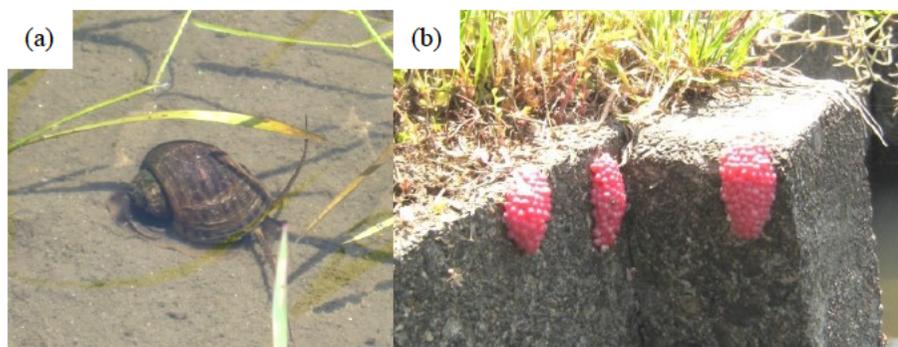


図1 水田に侵入したスクミリングガイ(a)と水路に産み付けられた卵塊(b)
(津市雲出地域・三重県農業大学校 宮本啓一氏 原図)

◆三重県内での被害状況◆

本種は移植後の若い水稲の茎葉を食害して切断し、欠株をつくります(図2)。三重県内では、主に伊勢湾や熊野灘に面した河口沿岸付近にある低湿田で、発生が確認されています。被害の発生は地域的ですが、水田の他、用排水路や河川にも生息するため、一旦侵入すると駆除は難しいです。大量発生した2009年には水田内の大半の株が食害を受けた事例もあります(図3)。



図2 スクミリングガイの食害による欠株被害の様子(桑名市多度町)

◆生態と防除のポイント◆

本種は水温が17℃より高くなると活動が盛んになるため、特に5~6月移植の水田では対策が必要です。生態の特徴を理解して効果的に防除しましょう。

1. 水田内への侵入防止：入水口に網(約5mm目合い)を張り、水路からの侵入をできるだけ防ぎましょう。
2. 浅水管理による食害の防止：田面を均平にして、水深約3cm以下を目安に浅水管理をすると食害が軽減できます。殻高1~2cmの越冬貝は葉齢6未満の柔らかい苗を好むため、移植後3~4週間までは浅水管理に努めてください。
3. 貝や卵塊の捕殺：水田内および周辺水路の貝を直接捕殺しましょう。卵塊(図1b)は水中に落とすかつぶして除去しましょう。
4. 冬期の耕起による越冬貝の防除：本種は耐寒性が低いため、厳冬期に水田を浅く細かく耕して貝を寒気にさらし、殻に傷をつけて死亡率を高めましょう。
5. 化学的防除：メタアルデヒド粒剤は移植後、本種を確認したら湛水状態(水深3~5cm)で処理します。処理後7日間は湛水状態にして落水やかけ流しをしないでください。水田以外(用排水路など)には使用しないで下さい。
6. トラクター等農機の洗浄による拡散防止：発生地域で作業した農機に稚貝が付着して未発生地域に持ち込む可能性があるため、農機の洗浄を徹底しましょう。



図3 大半の株がスクミリングガイの食害を受けた水田(鈴鹿市寺家町)

6. 気象のデータ

東海地方 1 か月予報 (平成 24 年 5 月 18 日 名古屋地方気象台発表)

東海地方の向こう 1 か月は、期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われて平年に比べ晴れの日が多いでしょう。また、上空に寒気が流れ込みやすく、大気の状態が不安定となる時期がある見込みです。後半は、低気圧や前線の影響で平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

1 週目 5 月 19 日～ 25 日	気圧の谷や湿った気流の影響で雲が広がりやすく、期間のはじめは雨の降るところがあるでしょう。はじめと終わりは高気圧に覆われて晴れる日もある見込みです。	津の降水日数・晴れ日数の平年値 2.2 日・4.0 日
2 週目 5 月 26 日～ 6 月 1 日	低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われて平年に比べ晴れの日が多い見込みです。	同 1.9 日・4.2 日
3～4 週目 6 月 2 日～15 日	低気圧や梅雨前線の影響を受けて、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。	同 4.5 日・7.0 日

東海地方週間天気予報 (平成 24 年 5 月 23 日 10 時 30 分 名古屋地方気象台発表)

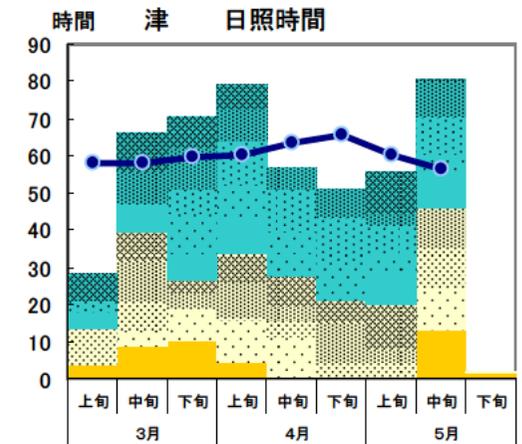
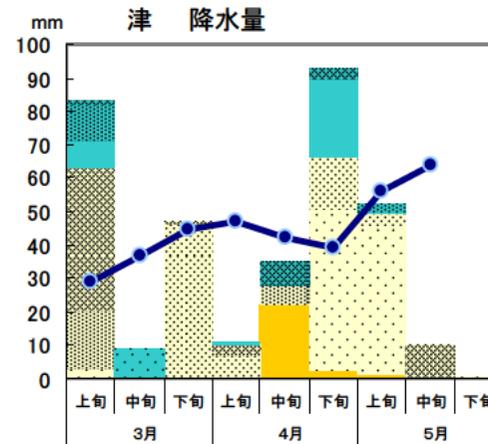
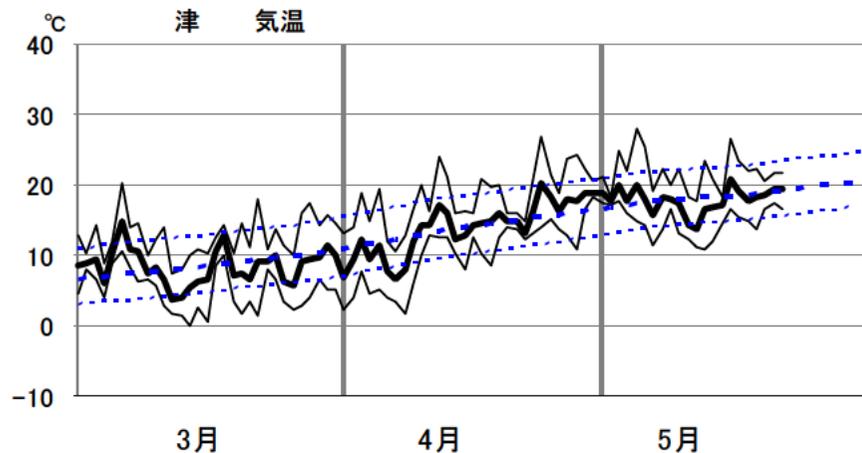
予報期間 5 月 24 日～5 月 30 日

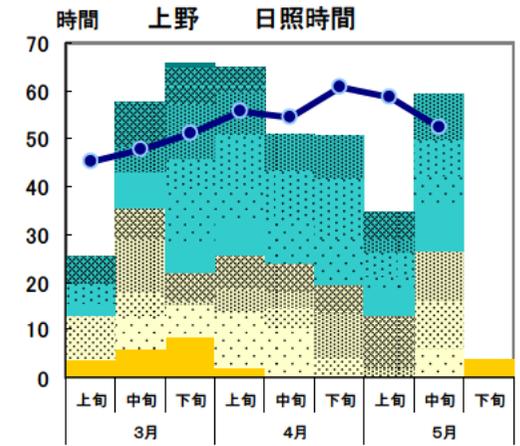
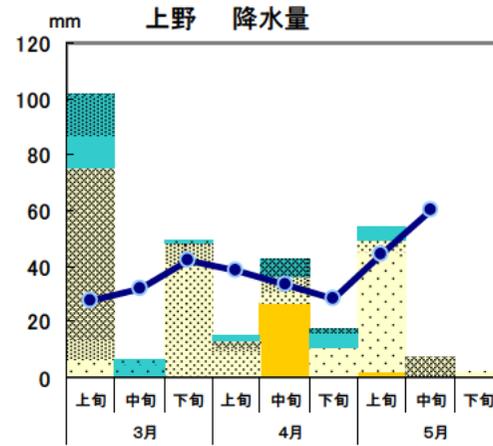
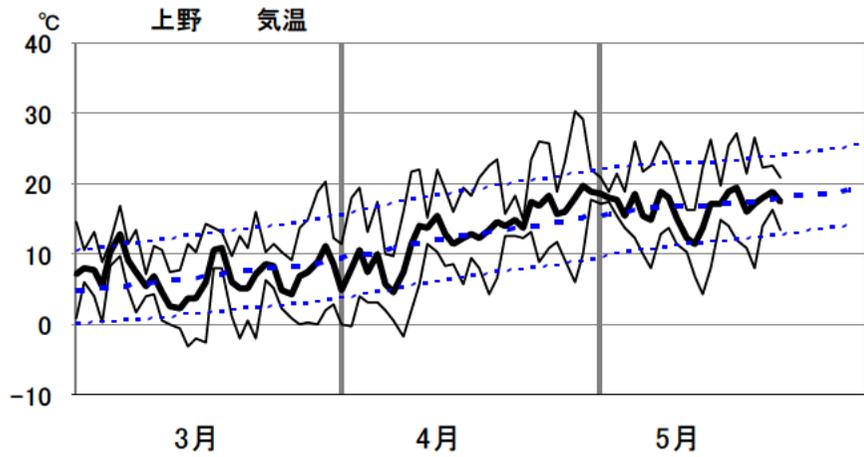
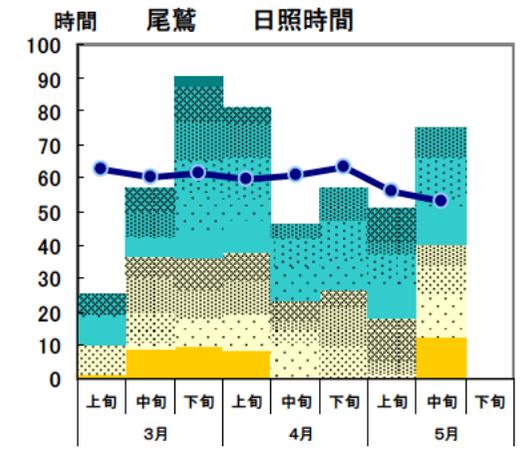
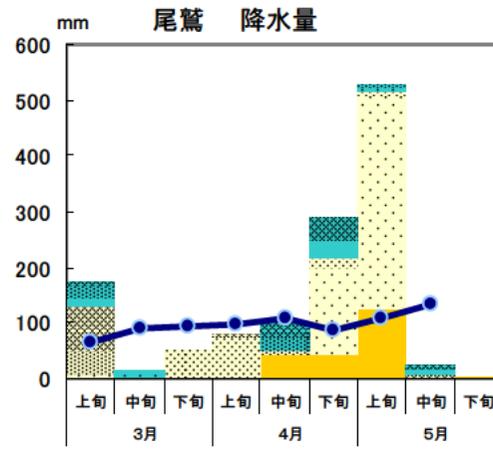
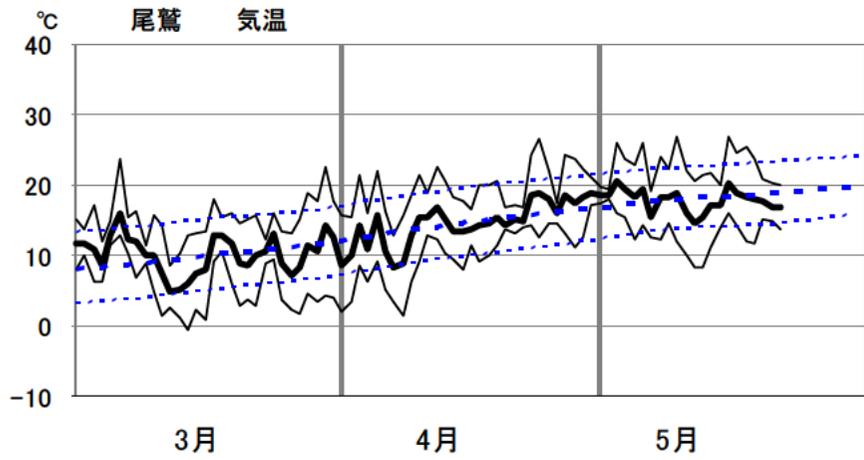
向こう一週間は、期間のはじめと終わりは高気圧に覆われて晴れる日がありますが、その後は気圧の谷や湿った気流の影響で雲が広がりやすいでしょう。

最高気温と最低気温はともに、期間のはじめは平年より高いですが、その後は概ね平年並でしょう。

降水量は平年より少ないでしょう。

気象の日別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成) (5 月 22 日まで)





凡例

- 平均
- 最高
- 最低
- 平年平均
- 平年最高
- 平年最低

凡例

- 31日
- 旬10日目
- 旬9日目
- 旬8日目
- 旬7日目
- 旬6日目
- 旬5日目
- 旬4日目
- 旬3日目
- 旬2日目
- 旬1日目
- 旬年値

15

凡例

- 31日
- 旬10日目
- 旬9日目
- 旬8日目
- 旬7日目
- 旬6日目
- 旬5日目
- 旬4日目
- 旬3日目
- 旬2日目
- 旬1日目
- 旬年値

7. おしらせ (前回と異なる項目には **NEW** の印があります)

1) 記載基準の注意点

平年ほとんど発生のないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述しています。

2) 発表日 **NEW**

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

- | | |
|---------------|---------------|
| 第1回 4月26日(済み) | 第2回 5月24日(今回) |
| 第3回 6月21日(木) | 第4回 7月19日(木) |
| 第5回 8月23日(木) | 第6回 10月18日(木) |
| 第7回 3月22日(金) | |

3) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

4) 本冊子の利用の手引き書

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。下記のアドレスからお入りください。

http://www.mate.pref.mie.lg.jp/Bojyosyo/files/h24yohotebiki_.pdf

5) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/merumaga.htm>

6) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報提供システム」

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm